

FOUND!
IN HISTORY



ベートーヴェンが亡くなったことが掲載されているベルリンの「音楽雑誌」。単に音楽的に貴重なだけでなく、当時の雰囲気も知ることができる。

(南英音楽文庫に関すること)
和歌山県文化学術課
電話 / 073-441-2050

(南英音楽文庫の保管資料に関すること)
和歌山県立図書館
住所 / 和歌山市西高松1-7-38
電話 / 073-436-9500

和歌山県立博物館
住所 / 和歌山市吹上1-4-14
電話 / 073-436-8670

県立図書館地下書架に保存されている資料を一冊ずつ、自筆サインがないか、ダメージがないかなど丁寧に調査する美山名誉教授。



県立図書館の南英音楽文庫閲覧室では貴重な資料の一部を手にとって閲覧できる。



膨大な資料を一冊ずつ紐解く
知的なラビリンスはこれからも続く

資料の研究を行うのは、美山良夫慶應義塾大学名誉教授を代表とする芸術資源研究所。まるで未知なる大海を泳ぐかのように、「ドイツ語や英語などで書かれた古く貴重な資料全てを調べていく。」目を通したのは現時点でようやく1割程度ですが、それは大英博物館そのものと形容したくな

るほど貴重なコレクションばかりです。最終的には音楽の研究者が、誰でも利用できるような形で全世界に発信予定。整理が一通り終了する2019年は紀州徳川家創設400周年にあたり、本格的に公開する予定だという。



※南英楽堂図書部入口に掲出された表札

▲ベートーヴェン自筆の楽譜(民謡の編曲)
©慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ総合研究センター

和歌山 人・もの・地域

和号外

n a g o m i

(mind Tracking)

南英音楽文庫が公開!

「音楽の殿様」と称された徳川頼貞は、日本の西洋音楽の父ともいえる存在。頼貞の音楽に対する造詣の深さや教育・文化に対する想いが、音楽資料20331点と共に100年後の和歌山に舞い降りる。

紀州徳川家16代当主頼貞のセンスが光る 世界的に貴重な音楽関連の資料、約2万点

頼貞は英国留学から帰国してまもなくの1918年、日本に西洋音楽を普及させるため、日本初の音楽専用ホール「南英楽堂」を建てた。有名な演奏家などを招きコンサートを開催し、多くの音楽家を後援。併設した図書部(※)で音楽資料を公開し、このコレクションが後に「南英音楽図書」とよばれるようになる。

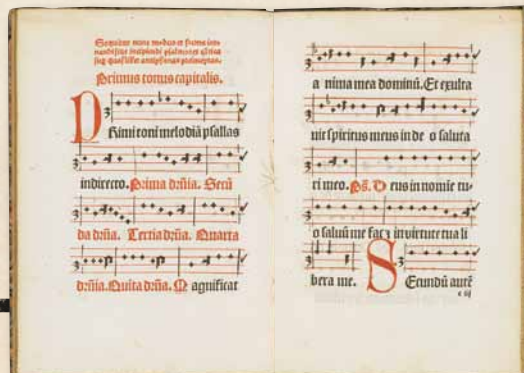
ところが関東大震災で南英楽堂は被災し、その後文庫は所在を転々とし、戦後しばらく行方がわからなくなったが、1977年以降は公益財団法人読売日本交響楽団に帰属、保管されていた。そのコレクションが和歌山県に寄託され、頼貞の功績と共に公開されることとなった。

「南英音楽文庫」の資料はなんと20331点にも及び、1500年頃に作られたミサで聖書を朗唱する方法を記した書籍をはじめ、ベートーヴェンの自筆楽譜や自筆書簡、ロッシニーの自筆楽譜、ヘンデルの自筆音楽理論書など世界で唯一のものから、バッハやモーツァルト、シューベルトなど世界的に有名な大作曲家の全集楽譜など、音楽関係者でなくても閲覧したくなるものがズバリ。特に貴重な98点の資料は県立博物館で保管展示する。それ以外は県立図書館で保管し、整理と研究を行っていく。南英音楽文庫閲覧室ではその一部を手にとって見ることが出来る。

頼貞のコレクションは、現在の和歌山から、世界にその価値を発信する貴重な宝である。

バッハ オルガン用変奏曲(高き空より)▶
世界に10数点しか残されていない初版(1747年頃)

使徒書簡および福音書の朗唱法(1500年頃)
インキュナブラとよばれる最初期の活版印刷のひとつ▼



日本西洋音楽の発展に尽力した 音楽の殿様、徳川頼貞とは

紀州徳川家15代当主頼倫(よしみち)の長男として1892年に生まれ、英国留学し、ケンブリッジ大学の錚々たる教授陣に直接師事した。紀州藩士の息子で第7代慶應義塾塾長となる小泉信三らが同行。新進建築家ブルメル・トーマスの設計する音楽堂に感銘を受け、日本に本格的な音楽堂を設置することを志した。もともと社交性に富んだ人物であつ



徳川頼貞の音楽的自叙伝「音楽家伝(わいていがくわ)」。表紙にはベートーヴェンの楽譜が印刷されている。現在でも県立図書館で閲覧可能。

南英音楽文庫は多くの貴重な資料を含み、世界的にも屈指の音楽コレクションとして知られていた。1932年には紀州徳川家の財政事情により南英音楽図書は閉館するが、戦前における「西洋音楽のパトロン」として頼貞の果たした役割は大きい。戦後は旧華族として国会議員となり、日本の国際交流に尽力した。

日本遺産に認定された 紀州徳川家の菩提寺

長保寺は長保2(1000)年、一条天皇の勅願によって創建され、奈良の法隆寺と同じく本堂・多宝塔・大門がそろって国宝に指定されている古刹。江戸時代の寛文6(1666)年に頼貞により紀州徳川家の菩提寺に定められ、約1500坪の境内に歴代の廟所が広がる。

長保寺
住所 / 海南市下津町上689 電話 / 073-492-1030



今も聞こえる日本初の音色 紀州藩士が繋いだ風琴のメロディ

頼貞は東京麻布の南英楽堂に、日本で最初のパイプオルガンを設置しようとするが、当時は組み立てやメンテナンスをする技術者が国内にはいなかった。そこで今後のためにと英国人技師の助手に選ばれたのは、日本楽器製造の一人の色を聞くことができる。



山葉寅楠は父が紀州藩で天文係を務めていたこともあり、幼少の頃から機械じりりが得意だったという。日本楽器製造では南英楽堂のパイプオルガンの保守、調律を行うかたわら研究を進め、国産最初のパイプオルガンを建造した。

※現在旧東京音楽学校奏楽堂は修理工事中。平成30年秋頃には再びパイプオルガンの音色を聞くことができる。

TOPIC!
IN TOKYO



旧東京音楽学校奏楽堂
住所 / 台東区上野公園8-43
電話 / 03-5826-7125(仮事務所)